

令和7年度 碧南市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日時

令和8年3月25日（水）午前9時30分から午前11時30分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム1

3 出席者

(1) 出席者 11名

榊原 和弘、鳥居 多佳子、鳥居 靖彦、清澤 和音、鈴木 たか子、三浦 志朗、
對馬 幸司、竹内 友二、山田 忍、石原 竹春、高橋 薫

(2) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻 紀恵 教授

(3) 事務局

ア 碧南市役所

福祉部長 伊藤 正博、高齢介護課長 小林 圭介、福祉課長 磯貝 浩、
福祉課福祉総務係長 金原 寛、福祉総務係主事 稲垣 吉朗

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長 中川 英治、地域福祉係長 古川 裕隆、
地域福祉係主査 小島 誠司、管理課児童係主任児童専門員 杉浦 恵理

4 傍聴者 0人

5 議事

(1) 議題

ア へきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) へきなん地域福祉ハッピープランの概要

(イ) 市民の意識調査結果

(ウ) 行政の取り組み

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

イ 各地区の地域福祉活動の取り組みについて

(2) その他

ア 次期「へきなん地域福祉ハッピープラン」策定に係る市民アンケート調査（案）

について

イ 碧南市重層的支援体制整備事業実施計画（案）について

6 議事要旨

(1) 議題

ア へきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) へきなん地域福祉ハッピープランの概要及び(イ) 市民の意識調査結果
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：毎年、福祉課より個別避難計画の作成依頼が来ているが、個別に訓練等がないので、実際の有事の際に、ちゃんと助けてもらえるのか不安である。

【事務局】：個別避難計画については、まずはご自身で有事の際にどのように避難するのか、誰に頼るのかを把握してもらうことが最重要である。訓練については、検討していきたいと考えている。

(ウ) 行政の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：3-3-3の項目「バリアフリー化について」は、道路拡幅工事が該当するという説明があったが、具体的な特色を教えてほしい。

【事務局】：令和8年度に開催される「アジア（パラ）競技大会」に向けて、碧南駅から会場までの道の拡幅工事を行っている。

【委員】：他自治体にはないようなバリアフリー箇所はないか。

【事務局】：都市計画の一環で、「レールパーク」という場所がある。平坦な道が続き、道途中には公園も設置されており、老若男女問わず活動している様子がみられる。

【委員】：「レールパーク」を良いモデルとして、市内の他の場所にもそういう場所を作ってほしい。新川地区には車いすでは通りにくい道もある。そのようなことも考えて、道などを作ってほしい。

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：これまで地域福祉計画に沿って色々な活動をしている中で、碧南市の福祉は前に進んでいると思う。ただその一方で、実際の災害が起こったときに、どのように動くのかというのは喫緊の課題であるが、なかなか解決しない問題であると感じている。

【事務局】：「地域共生社会」を目指す中で、人と人がつながりあう社会を碧南市としてどう構築するのか、検討していきたい。

【委員】：町内会の加入率が7割を満たない状況である。地域にどのような人がいて、どのような支援が必要か把握するのが町内会の役割だと思っている。町内会と民生委員が情報共有を行い、どのようなことができるのか考えていきたいと感じた。

イ 各地区の地域福祉活動の取組みについて

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：今年の地域福祉会議シンポジウムに参加した。もっと他の人にも活動を知ってもらい、市民に活動を浸透させていくべきだと思う。

【事務局】：報道発表など、PRをしていきたい。

(2) その他

ア 次期「へきなん地域福祉ハッピープラン」策定に係る市民アンケート調査（案）について

事務局が会議資料に基づき説明した。

<主な意見・質疑>

【委員】：障害をもった母親の育児について相談をしたい場合に、碧南市ではどのような対応になるのか。

【事務局】：最近は複合的に課題を有している相談が多くなっている状況である。そのような課題に対して、包括的に支援ができるよう「重層的支援体制整備事業」の展開を予定している。

【委員】：アンケートの中で「再犯防止」についての箇所があるが、設問の内容が一般の人には関係ないと思われてしまうかもしれない。再犯をしないよう、地域との関わりが大切、福祉と密接に関わっているということが感じられるような設問にしてほしい。

【事務局】：アンケート全体で「再犯防止」につながる設問作成としているが、貴重なご意見として検討していきたい。

イ 碧南市重層的支援体制整備事業実施計画（案）について事務局が会議資料に基づき説明した。

<主な意見・質疑>

【委員】：すごく良い支援であると思う。アウトリーチもぜひ積極的にやってもらいたい。

【委員】：アウトリーチとは。

【事務局】：今まで支援が届いていない人、周りは必要だと思っているが本人は不要だと思っている人などに対して、アプローチをしていく支援。

【委員】：こども食堂の運営をしている。地域や企業に寄付してもらった物資の配布などを行っているが、元民生委員を通じて、その場所に来られない人にも物資を届けている。こども食堂は貧困というイメージがあるが、多世代交流の場として活動しているので、困っている人の情報が共有できれば、色々な人と繋がれると思っている。

【事務局】：「重層的支援体制整備事業」は居場所づくりが大切だと思っている。

【委員】：後継ぎ問題やなり手不足という声を地域でよく聞く。なにか対策はあるか。

【事務局】：地域の後継者問題などの地域の仕組みづくりについては、地域ごとの取り組みがあり、各地域の中でどういう方法があるか、特色に応じて対応していきたい。

(3) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括
～総括～

ようやく碧南市も「重層的支援体制整備事業」が始まるということで嬉しく思っている。ただ、始めるだけではなく、より良いものにしていかないといけない。そこで大切になってくることは、今まで碧南市で活動してきたものだと思う。

地域福祉会議では、各地域が特色に合わせて進めてきた。他の地域と同じことを無理をしてやる必要はない。各地域の特色があるので、そこに応じて活動を考えていけば良い。

また、アウトリーチをより良いものにするためには、学校との連携が最重要である。不登校・引きこもりの問題などは、学校生活の中で発見できることがほとんどである。スクールソーシャルワーカーも1つの手段であるが、学校との連携を早めに構築して行ってほしい。

災害の問題は大学の中でも課題の1つだと考えている。被災地の話を聞いたところ、事前にしっかりと訓練・情報共有ができていた施設は、被害者を出すことなく避難することができたという事例もある。被災地には実際の体験に基づいたエビデンスがあるので、参考にすることが大切である。